

学会参加報告

11月14-19日に沖縄県で開催された第22回国際動物学会議と第87回日本動物学会大会の合同大会に塘研究室の大平創君（博士後期課程3年）、緒勝祐太郎君（博士後期課程1年）、真下雄太さん（学振特別研究員PD）、塘の4名が参加しました。塘以外の3人は17日と18日にOCC（沖縄コンベンションセンター、展示ホール）でのポスター発表を行いました。以下に簡単に報告します。

学会は14日夕方のオープニング・セレモニーから始まりましたが、Prof. P. W. Hollandによるオープニング・レクチャー「From Darwin to DNA: a tale of genomes, embryos and animal evolution」に間に合うように会場のOIST（沖縄科学技術大学院大学）に到着できたのは真下さんだけでした。塘はホテル（リザンシーパークホテル谷茶ベイ）でのレセプションから、大平君と緒勝君はさらに到着が遅くなり、レセプションの美味しい食事にはありつけませんでした。15日と16日はOISTでの国際会議で、午前中はオーディトリウムでの全員参加のプレナリー・レクチャー、午後は5つほどの会場に分かれてのインターナショナル・シンポジウムでした（2日間で18のシンポジウムと3つのサテライト・ワークショップが開かれました）。日本人若手研究者が頑張っている姿とタイの大学院生の流ちょうな英語によるプレゼンテーションが印象に残りました。大平君と緒勝君はちゃっかりサンプリングにも出かけており、各種カニムシ、ナナホシキンカメムシ、オキナワオオミズスマシなどを採集していました。夜はホテルの居酒屋で沖縄料理と女性3人組による沖縄の生歌と三線の生演奏を堪能しました。

17日からは会場をOCCに移して日本動物学会大会との合同大会でした。17日は12のドメスティック・シンポジウムと日本動物学会の各種授賞式・受賞者講演でした。18日の午前中は再び全員参加のプレナリー・レクチャーが劇場で開かれ、午後は2つのドメスティック・シンポジウムと10のインターナショナル・シンポジウムが6つの会場で開かれました。ポスター発表は17日の15:00-17:00と18日の17:30-19:00の2回でした。大平君は「Molecular phylogenetic analysis of species of the genus *Mundochthonius* (Pseudoscorpiones: Chthoniidae) in Japan」、緒勝君は「Effects of environmental variables on carabid beetles (Coleoptera, Carabidae) in the Urabandai area affected by the Mt. Bandai eruption of 1888」のタイトルで発表しました（真下さんのタイトルは「Innovation of fertilization in basal split of Hexapoda」でした）。残念ながら二人のポスターはそれほど多くのお客さんには来てもらえませんでした。二人とも来てくれた方には説明と議論をしっかりとしていました。大平君が中国人の学生さん(?)に対して一生懸命英語で説明している姿には頼もしさを感じました。19日は沖縄タイムス社ビルにて高校生によるポスター発表（福島成蹊高校も3件のポスター発表をしていました）、会員による研究材料の紹介（動物学ひろば）、一般向けの講演会が開催されました。塘はポスター発表だけ見て那覇空港に移動し、夕方の便で帰福しました。

およそ10日前に陸水学会大会で来た時と同様、連日天気には恵まれましたが（19日だけ小雨）、今回も暑くて大変でした。外国からの参加者200名を含む1100名がこの合同大会に参加したそうですが、約730枚のポスターが貼られたポスター発表会場は熱気も加わり見て回るだけでも大変でした。プレナリー・レクチャーはエキサイティングなものが多く、また、プレゼンテーションの方法など勉強になる点がたくさんありました。



OIST の国際動物学会議の会場入口



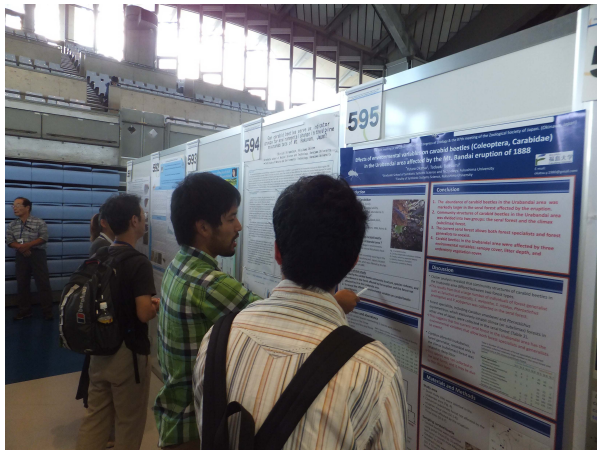
OIST の敷地内から谷茶の海を臨む



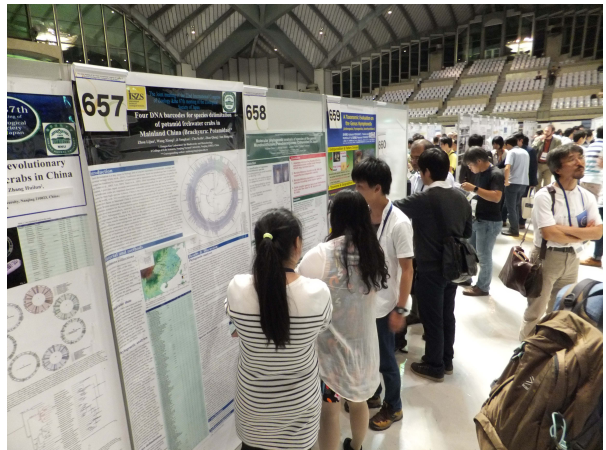
合同大会会場の OCC 入口



ポスター発表会場の OCC 展示ホール



緒勝祐太郎君の発表の様子



大平創君の発表の様子